

潜在的表現能力の育成

～短歌へのいざなひ～

The Development of Implicit Productive Skills

— An Invitation to TANKA —

木内 和夫

KIUCHI Kazuo

要 旨

「表現能力の育成」をライフワークとして来た。教諭時代から、日々の授業を通して、生徒の潜在的表現能力を育成するために、①弁論指導、②短歌・俳句指導を計画的に行い、実績を残して来た。2005年度の千葉県教育庁北総教育事務所時代から本格的に「短歌・俳句」の出前授業を継続している。2009年度の教頭、副校長、校長になってからは、生徒への授業が実施できなくなったので、学校経営の中で、全校生徒対象の表現能力育成を試みるようになって来た。

今回の実践報告は、明海大学勤務期間における小学生向け、高校生向け、保護者向け「短歌出前授業」を中心に、以下実践報告をさせていただく。

1. はじめに

千葉県立東総工業高等学校に赴任したときは、工業高校という特性を生かし、「ものづくりから、人づくり、国づくり」を教育目標としてかかげ、ものづくりのセンスを高めるために俳句・短歌創作を実施し、言語活動を充実させることにより、生徒の感性、想像力、創造力を高めることで、効果を上げることができた。

全校生徒対象に、短歌及び俳句の課題を課し、校長に提出し、年度末に校長賞として表彰するようにした。工業高校のものづくりを題材とした短歌作品等は非常に新鮮で、生徒の感性、創造力、想像力も磨かれ、表現能力は高められたと確信している。

千葉県立松尾高等学校に赴任してからは、「読解力の向上」と「言語活動の充実」を学校経営の柱として位置づけ、併せて生徒の「表現能力の育成」を

推進してきた。

全校生徒対象としては、1学期に「俳句と短歌」の創作を課した。校長に提出させ、年度末に校長賞として表彰することにした。以下に掲げる作品は、2016年度の松尾高校の生徒の優秀作品である。

＜俳句入賞作品＞

薫風にそよぐ緑や木々の枝
君への想い花火の音で掻き消され
空に舞い咲いて散りゆく夏花火
雨音と共に奏でる蛙の子
打ち水をまいては涼み京の庭
春風に背中押されて夢の中
白球と入道雲の背比べ
音飛ばせ入道雲の頂に
自分にも他者にも負けじと汗ぬぐう

＜短歌入賞作品＞

教室のベランダから見る海辺にはまぶしく光る
五月の日差し
雨あがり灰色の雲の隙間から虹がかかりて空を
いろどる
声枯らし叫ぶ応援高らかにオムニコートで最後
の夏を
若葉萌え緑の木々も生い茂り里にも豊かな初夏
の訪れ
その指でなぞるピアノの音色には眠気を誘う夢
見る心地
教室の優しい笑顔もグラウンドの険しい顔も君だ
から好き
ごみ箱に涙も全部投げ捨てて明日への希望抱き
夢見る
あの頃は夏帽子越しに見上げてたそんな背中も
今じゃすぐそこ
まだいける君が言うから頑張れるその一言が私
のはげみ

60年以上の歴史を誇る、地元山武市主催の「左千夫短歌賞」では、上位に3名の生徒作品が入賞した。

学校経営の一つの方法として、生徒の感性、想像力、創造力を高めるための俳句・短歌の創作は大きな意味があるし、豊かな心の育成にとっても、読解力を含めた確かな学びの育成にとっても意味のある学習だと思う。

以上のような実践の中から、本稿では、2014年度から2019年度までの実践の中から、小学生向け短歌出前授業、千葉県内の高校生向け短歌出前授業、保護者向け短歌出前授業の実践をまとめ、短歌の効果的な指導方法を提示することにする。

2. 小学生向け短歌出前授業について

2005年度から4年間、千葉県教育庁北総教育事

務所指導主事（国語・特別活動）として勤務し、北総管内の小学校での出前授業を始めた。同時期、星勇人指導主事（現栄町立安食台小学校校長）と席を並べて仕事をした。そんな縁もあり、2014年度に千葉県立東総工業高等学校校長として赴任してから、6年間にわたり2つの小学校の「短歌出前授業」の要請があり、訪問させていただいている。

末尾の「短歌出前授業パワーポイント」を使いながら、短歌の基礎と創作のためのポイントを15分くらい説明し、そのあとはクラスの児童との1対1のコミュニケーションを重ねながら短歌を創作させた。45分という短い時間ながら児童たちは真剣に集中して短歌を創作してくれた。

その時間にできた作品を後日、東洋大学主催の「現代学生百人一首」に応募した。

東洋大学主催「現代学生百人一首」は、第1回が1987年で、東洋大学の創立100周年を機に始めた事業で、33年の歴史を誇る大会であり、応募総数も年々増加し、2020年では中学校・高等学校・大学・短大・専門学校の総数が61,976首で入選が100首（約620倍）、小学校の部の総数が554首で入選が10首（約56倍）とかなり狭き門となる。

そんな中、星勇人氏が校長として勤務した山武市立睦岡小学校で3年連続入選、その次に勤務した栄町立安食台小学校で3年連続入選、計6年連続入選という快挙を成し遂げた。私も6年間「短歌出前授業」をさせていただき、その時の作品が6年連続で入選したことに、自分のことのように嬉しく感じている。

以下、今年の作品から2015年の作品まで時間をさかのぼる形で紹介する。2020年の作品は児童のコメントも合わせて紹介する。

＜2020年入選作品＞

ドンッとなりパラパラ散ったあの花火切ない思
い強く心に（安食台小学校 5年男子）

☆僕の住んでいる栄町では、夏に利根川の近くで『リバーサイドフェスティバル』というお祭りをやっています。迫力のある花火が空高く上がって、パラパラと大きな花を描いて散って来ました。「これで夏祭りも終わるか……」という気持ちを短歌にしました。

春風につくしがゆれる右左のっぽになるのまち
遠しくて（安食台小学校 5年女子）

☆春におじいちゃんと散歩に行きました。その時、つくしが咲いていました。そのつくしが、風に吹かれてゆらゆらと左右に揺れていました。風は、生暖かく「春風だ」とすぐに思いました。そして、そのつくしはまだ小さかったので、「のっぽになるの待ち遠しくて」と書きました。

くらやみにライトてらすと百合の花白くかがや
き道ばたにさく（安食台小学校 5年女子）

☆習い事の帰りに車のライトで照らしてみたら、百合の花が白く輝いていたので、短歌に書きました。

日本一大きい魚とならび立ち自分の夢と大きき
比べ（安食台小学校 6年男子）

☆夏休みに、北海道の博物館で、日本最大の魚イトウと並んで写真を撮りました。ぼくの夢は医者です。非常に大きい夢だと思います。日本最大の魚、イトウと、ぼくの夢、どちらが大きいかを比べてみました。短歌の授業でこのことを思いついたので、書いてみました。

< 2019 年入選作品 >

発表会シャープとフラットよく見なきゃ一小節

で全てが決まる（安食台小学校 5年女子）
飛び出るよ苦勞の火花鉄工所キラキラ光る銀の
鉄から（安食台小学校 6年男子）

< 2018 年入選作品 >

同点だおのれの力しほり出せ残り 8 秒フリース
ローで（安食台小学校 6年女子）

< 2017 年入選作品 >

報国寺きれいになびく竹の庭疲れを忘れ涼しさ
が増す（陸岡小学校 6年女子）
一点差この土壇場で誰決めるチームの熱気ただ
ようばかり（陸岡小学校 6年女子）

< 2016 年入選作品 >

発表会黒と白とのけんばんに手を置いたならも
うもどれない（陸岡小学校 6年女子）
強敵の速くて重いあのシュートそれでもぼくは
ゴールをまもる（陸岡小学校 6年男子）

< 2015 年入選作品 >

あと一歩すぐそこにある優勝がおれの一打で今
決めるんだ（陸岡小学校 6年男子）

3. 高校生向け短歌出前授業について

3-1 千葉県立浦安高等学校での試み

千葉県立浦安高等学校とは、今年度から高大連携を締結し、様々な分野で連携を始めている。「短歌出前授業」は連携を締結する前年度から開始した。2019 年 1 月 23 日（水）・25 日（金）の両日、浦安高等学校に二日間訪問し、第 1 学年の 6 クラスを二日間にわけて図書館で授業をした。（2019 年度は、1 月 29 日（水）・30 日（木）の二日間にわたり同じように実施した。）

授業の流れは、末尾の「短歌出前授業パワーポイント」を使いながら、短歌の基礎と創作のためのボ

イントを15分くらい説明し、そのあとはクラスの生徒との1対1のコミュニケーションを重ねながら短歌を創作させた。50分という短い時間ながら生徒たちは真剣に短歌創作に取り組んでくれた。

その際出来上がった作品は、2020年度からは高校生対象の短歌大会に応募することになっている。

以下、二年間にわたる浦安高等学校の生徒の短歌作品秀作を紹介する。2019年度は生徒の感想も合わせて紹介する。

2018年度浦安高校1A

知らぬ間に一面覆う夕空の一部になれと大きな
吐息：自然
張り詰めた空気の中を切り裂いて響かせ俺のテ
ナーサックス：部活動・吹奏楽
二点差は油断できない得点差ロスタイムには逆
転される：部活動・サッカー
終盤の接戦からの一点は常に全力油断大敵：部
活動・野球
あの人の思う相手は誰だろう分からないけど
そっと応援：恋

2018年度浦安高校1B

強敵に一矢報いたホームランだけど2点が遠
かった夏：部活動・野球
ほぼ空の財布はたけど金は出ず何一つとて買え
るものなし：人生
近づいて見つめるだけで胸熱く離れて見れば僕
だけのもの：恋
あと一点ミスはできないこの試合シャトル追い
かけあきらめるなよ：部活動・バドミントン
道場の射位に構えて矢をつがえめ定的を見定め弦音
響かす：部活動・弓道

2018年度浦安高校1C

放課後の廊下に映る僕の影教室の中一人たそが
れ：学園生活
フェンス際この手に入る白球を力を込めてホー

ムへ返す：部活動・野球

浦高で今まで過ごしかることこの学校はトイレ
レがにおう：学園生活

崖っぷち夢の舞台へもう一歩伸びる打球は夏の
始まり：部活動・野球

寒い中急いで帰ると待っている優しい笑顔と温
かいごはん：家庭

2018年度浦安高校1D

もう負けない夏の悔しさバネにしてパスで導く
チームの勝利：部活動・サッカー
毎日がいつもどおりの風景で押されて歩く冬の
眠たさ：学園生活
平日の布団の中から抜け出せずご飯を食べる時
間も削る：家庭
依存症手から離れぬその機械母は怒鳴るがもう
離せない：学園生活
サックスの優しい音色奏でればみんなに届く音
のお手紙：部活動・吹奏楽

2018年度浦安高校1E

片思いずっと前から君想い君に届くかスリーポ
イント：部活動・バスケット
憂鬱な冬の朝にはあったかい布団の中にもぐっ
ていたい：家庭
40分野原を走る虎のよう球にしがみつ
シュートを決める：部活動・サッカー
夕闇にフルートの音響かせるいつかはキミに聴
いてほしくて：部活動・吹奏楽
夜ご飯広がるにおいみんな来る母の手料理効果
抜群：家庭

2018年度浦安高校1F

右打者の強い打球が目の前に三塁線は通過させ
ない：部活動・野球
好きだけど画面の中は触れられずただ見て思う
君の姿を：恋
夜の空とけこんでいく白い息母待つお家とほか
ほかごはん：家庭
僕たちの最後の1枚記念写真共に写ったピンク

の花びら：恋

あいまいで届かないわけじゃないけれど割り切れないまま終わらせたくない：人生

2019 年度浦安高校 1A

冬景色白き頂富士の山水面に映る青色の空：自然

降りしきる雪の夜道歩きゆく静かに消えるくつの足音：自然

大物を求めて狙う防波堤かすかに見える魚影よかれ：趣味・釣り

放課後の笑顔あふれるひとときは自分の描く夢の青春：学園生活

風に乗り甘い香りがほほをなで眼鏡に写るまばゆい夕日：自然

2019 年度浦安高校 1B

一学期軽い体で学校へけれど今では拒否する体：学園生活

大前で手に汗かいた七秒を貫く矢声射場に響く：部活動・弓道

西日さす教室中に響く声台本片手にいつか舞台へ：部活動・演劇

お弁当毎日変わる父の味いつも楽しみ感謝感激：家族

キャンパスの多色世界に引き込まれ木々のせせらぎ沈黙の中：部活動・美術

2019 年度浦安高校 1C

一点もあげてはいけないこの場面外野の俺がチームを救う：部活動・野球

胸熱く手に汗握る終盤戦ミットに向かって白い矢放つ：部活動・弓道

夏夜空真っ赤に輝くアンタレスさそりを造る熱い心臓：自然

はりつめた会場の中一人立つ鍵盤見つめ音を奏でる：部活動・吹奏楽

静まった道場の中矢をつがえ的に向かって弦音を鳴らす：部活動・弓道

2019 年度浦安高校 1D

暑い夏必死に追ったあのボールネットが揺れて終わりの合図：部活動・サッカー

心臓と戦う母に頑張れと今度は俺が頑張る番だ：部活動・野球

翻るスカートの裾を整えて凍える風に身を震わせる：学園生活

部屋の中セリフを詠めばすぐそこに私の想う時が作れる：部活動・演劇

青々と広がる空と桜雨新しい道歩き始める：自然

2019 年度浦安高校 1E

軽い球鋭いスピン目に入る覚悟を決めた相手の死角：部活動・卓球

白熱の会場熱く燃え盛る手に汗握り脈打つ鼓動：部活動

毎日がずっと続けばいいのになでもふと気づく近寄るゴール：人生

2分半フロアの中で舞い踊る息をそろえて五人でひとつに：部活動・ダンス

君がいて私の隣埋まってたあなたの左誰だろあの子：恋

2019 年度浦安高校 1F

小説の非日常さに心浮くいつかは俺も書き手の側へ：夢

猛暑日の日差しがそそぐ図書館に香る書物とセミの鳴き声：学園生活

矢をつがえ狙いを定めて弦はなす君の「矢声」が耳まで届く：部活動・弓道

ありがとう縮む背中が愛おしい歳とる母に感謝の気持ち：家族

初めてのキャンパスに描く私の絵重ねる色に変わる風景：部活動・美術

2019 年度浦安高校短歌出前授業生徒感想

1 男子

短歌をやる前は絶対難しいと思っていたけれど、

やってみたらやっぱり難しかった。でも楽しいなと思ったりいろいろなことを思った。

初めてやったので、すごく悩みながら考えて小さい「つ」が入らなかったりしてなんだよか思ったりしたけれど、いい短歌を3つくらいできたのでとてもよかったなと思ってます。

先生に見てもらおうときに、「大丈夫かな」とかすごく緊張した。けど先生に「いいね」とか言われた時に、「よっしゃ」とかこんな嬉しいんだと思った。

今回は2回しかやってなくてまだやりたいなと思ったりするくらいその1回の授業が楽しかったので、またあの先生ともう一度授業を受けたいです。

久しぶりくらいの悩んで悩んで考えて考えてをしたので、一か月に一回はしたいなと思いました。それくらい楽しかったので、また短歌をやりたいです。先生と授業ができてよかったです。ありがとうございました。

2 男子

今回、明海大学の先生の短歌出前授業で僕は短歌と俳句について少しは理解できました。それと、実際短歌を考えて作るとなるとすごく大変で難しいということがよくわかりました。

短歌はテーマを考えつつ、そのテーマに沿って57577をも考えてやらないといけないので、本当に難しく正直辛かったです。

ですが、短歌を作った後の達成感はとても良かったです。僕はこの短歌を多く作っている明海大学の講師の先生はすごい人だなと思いました。

3 男子

短歌を初めて作ったのですが、想像以上に難しくて驚きました。57577のリズムに合った言葉が見つからなく苦労しました。伝えたい情景や気持ちがあっても短歌にするとうまく伝えられませんでした。短歌の奥深さを感じました。そしてもっとたくさんさんの言葉を知りたいと思いました。百人一首に

載っている和歌を作った昔の人達のことを尊敬し、すごいと思うことができました。

今回の授業をきっかけに文学にも興味を持つことができました。文系の大学についても調べてみようと思うこともできたので、とても良い経験になりました。

私生活で短歌を聞いたり、作ったりする機会はなかなかないので、今回の授業を受けて本当に良かったです。

4 女子

今回、初めて短歌作りに挑戦したが、思っていた十倍くらい難しくて作れませんでした。俳句と違って短歌は57577なので、字数を合わせるのが苦手でした。

ですが、それ以上に難しいと思ったのは、テーマに合った言葉選びです。字数制限がある中で、どうすれば読み手に想いを伝えることができるかと考えているとあっという間に時間が過ぎてしまいました。こんな機会はめったにないので体験することができて良かったです。

5 女子

今回、久しぶりに短歌を作って、難しかったけれど楽しいなと思いました。落ちをつくったりするのが難しいです。みんな作るの上手ですごいと思いました。これからも作る機会があればいいなと思います。

先生のアドバイスが的確でためになりました。これから木内和夫さんに教わりたいです。こんなに素晴らしく楽しい機会を作ってくださってありがとうございました。

6 女子

もともと百人一首が好きで短歌に興味を持っていたけれど、今回の短歌出前授業で講師の方のお話を聞いたり、実際に自分で作ってみたりして、短歌の

魅力やその難しさについてより深く知ることができてよかったです。

特に私が面白いと感じたところは、「楽しい・きれい・怖い・面白い」など、普段から濫用してしまいがちな形容詞を使わずにその感情を表現しなければならないということです。

最初は難しいと思ったけれど、自分で短歌を作っていくうちにだんだん慣れてきて、楽しいと感じるようになりました。

また 57577 という短い文で構成されているからこそ、伝えたい情景や感情を的確に伝える必要があり、自分で分かりやすい単語を考えるのも面白かったです。また自分で作ってみようと思います。

3-2 千葉県立松尾高等学校での試み

2018 年 8 月 28 日（火）、千葉県立鴨川青年の家に招かれて、千葉県立松尾高等学校 3 年 B 組のクラス合宿のまとめの意味で、「短歌出前授業」を実施した。松尾高校は 2016 年度、2017 年度と校長を務めた学校であり、2 年間にわたり参加した生徒たちと様々な行事で触れ合うことができた。今回の合宿での体験と 3 年間の松尾高校での思い出を振り返りながら短歌にまとめる流れとした。

授業の流れは、末尾の「短歌出前授業パワーポイント」を使いながら、短歌の基礎と創作のためのポイントを 15 分くらい説明し、そのあとはクラスの生徒との 1 対 1 のコミュニケーションを重ねながら短歌を創作させた。50 分という短い時間ながら生徒たちは真剣に短歌創作に取り組んでくれた。

以下、今回の出前授業時に創作した短歌を紹介する。

1 引率教諭

- ・わらじ履くお地蔵さまに手を合わせ心清める
鈴虫の寺
- ・声合わせ力合わせてキラキラと光る水面に漕ぎ出すオール
- ・火を囲み思いの丈を語る夜海の上から月が見

ていた

2 女子

- ・恥ずかしい気持ちを胸に秘めたまま母に手渡す一枚の紙
- ・諦めるもう決めたのにまだ揺れる私の心はまだあなたかも
- ・山からの見下ろす景色に感動しボタンを一押し心のアルバム
- ・船に乗りみんなで息を合わせ漕ぐ前へ前へとさあ冒険だ
- ・この広い大きな大きなキャンパスに私の未来をどう描こうか
- ・夏からの練習頑張り団結し光の先はナンバー 1
- ・息止めて黒白一点見つめてる放した努力は花を咲かせる
- ・手をつなぎ一緒に君と踊る時どうして君は控えめなの

3 女子

- ・トンビ飛ぶ青空の下透き通る海と仲間と青春の夏
- ・ゆらゆらと炎が燃える真夏の夜手のひら握り絆つながら
- ・キラキラと輝く笑顔はじけてる 38 個欠けることなく
- ・しっかりとピントを合わせ押すシャッター画面の向こう笑顔きらめく
- ・友と夏この瞬間が愛おしくカメラ向けるがぼやけるレンズ
- ・あたたかく元気に伸びるひまわりのあなたの笑顔心惹かれて
- ・君の瞳をそっと見つめて微笑むと宝石のような笑顔になるよ

4 女子

- ・髪なびく青く広がる砂浜で寂しげな顔どこか愛しい
- ・太陽に顔向け背伸びまっすぐと今年も来たかと思う青空

- ・ 鴨川の人々と過ごしたあの記憶見上げてみ
ると浮かんで消えて
- ・ 思い出を忘れぬように響くシャッター形のな
いものいくつかあるのか
- ・ きらきらと光に照らされ輝いた流したものは
絆だろうか
- ・ ステージで輝く笑顔は目の前にそこにいるの
に手が届かない
- ・ 別世界自ら声をかけられず変わらぬ日々を今
日も過ごして
- ・ 不意に来る背後の気配意を決し振り返っても
誰もいない
- 5 女子
 - ・ 毎日の暑さ耐えつつ緑林の長い坂道友と見合
わす
 - ・ 青空の下に広がる黒い土ひまわりよりも輝く
笑顔
 - ・ たくさんの笑顔が残るアルバムをカウントダ
ウンが始まる知らせ
 - ・ 鴨川の海に広がる笑顔たち誰にも負けない青
春の日々
 - ・ 大丈夫その一言で救われた夢をつかんでまた
その先で
 - ・ テレビ越し「最後の夏」を見届けた泣き顔よ
りも満面の笑み
- 6 女子
 - ・ 太陽が夏の浜辺で肌焦がす吹く潮風に思い出
乗せて
 - ・ 木にとまりまだ生きるぞと鳴き叫ぶわずかな
命尊き七日
 - ・ 遠ざかる君の姿を見つめてるまた明日ねと手
を振り返す
 - ・ 会えなくて君想うほど胸痛む今すぐにでも飛
んで行きたい
- 7 女子
 - ・ 青い空黄色の花が太陽に大きく開く夏の訪れ
 - ・ 真っ黒な夜空に響く低い音光輝く大きな花火
- ・ 無意識に早く瘦せたい口動く来年までにマイ
ナス五キロ
- 8 女子
 - ・ 町中におはやし響く八月の神輿かついだ夏の
思い出
- 9 女子
 - ・ 鴨川のライフジャケット身にまとい沖から離
れたカッター体験
- 10 女子
 - ・ 今日この日キラキラ光る海の上晴れた青空み
んなではしゃぐ
 - ・ 君の顔画面の向こう笑顔咲く心にしみるヒマ
ワリのように
 - ・ 夏の夜願いを込めてしゃがみ込むあなたの瞳
小さな光
- 11 男子
 - ・ 夢の中時空を止める夏の夜地獄始まる夏の終
わり音
 - ・ 隠せない心の思い伝えたい身体に刻む自分の
言葉
 - ・ 火が魅せる夏の醍醐味夢花火光輝く炎の強さ
- 12 女子
 - ・ 夏の夜大きな炎勇ましい息を合わせてみんな
でダンス
 - ・ フランスのワールドカップ騒がせた華麗なドリ
ブル若き新星
 - ・ 盆の夜年に一度の先祖の帰宅お帰り込めて線
香一本
- 13 女子
 - ・ 午後四時にみんなで浴びた夏の海帰りは裸足
灼熱の道
 - ・ 満点の星空の下火を囲み友との絆更に深まる
 - ・ シャリシャリとスプーンで崩す雪の山赤色か
けてあなたと食べる
- 14 女子
 - ・ 赤い火が級友照らす初日の夜過ぎ行く時間静
寂来たる

- ・目と目合い思わず逸らす天邪鬼ステージの光
笑顔輝く
- ・朝起きて真っ先に浮かぶ君の顔スマホを見て
は心が痛む
- 15 男子
 - ・こんばんはニュースで見てた赤い服着ていた
人が玄関前に
 - ・お味噌汁豆腐まみれでこんにちは具材の中か
ら私ゴキブリ
- 16 女子
 - ・夏の夜皆で仲良く手をつなぎグルグル回って
大汗流す
 - ・夏の空鮮やかな色輝いて波の横顔明るく照ら
す
- 17 女子
 - ・ばしゃばしゃと走り続ける夏の海みんなで過
ごした平成最後
 - ・毎日の辛さを越えてもう三年これから先は幸
せ願う
- 18 女子
 - ・忘れない心踊らす波の音に青い絨毯光輝く
 - ・会いたいよ君の笑顔が向日葵で僕の心は枯れ
た花びら
- 19 女子
 - ・墓地の中ゲタ音鳴らす叫び声とり残されたか
んざし一つ
 - ・愛猫のじゃれるススキの影つくる満月追うは
にじむ星々
- 20 男子
 - ・体育祭汗を流して縄回す息を合わせて仲間飛
ばせる
 - ・空に咲く炎の花が音鳴らす静かな町が今宵は
賑わう
- 21 男子
 - ・四本目結果が決まる最後の時この一つ矢に想
いを乗せて

- ・六人で全国目指し共に射る 20 本の仲間たち
の矢
- 22 男子
 - ・ぼんやりと校舎の窓辺見つめてる気付かない
でと自分に嘘つく
 - ・足だけと言われて向かう海辺まで飛び込み伺
う先生の顔
- 23 女子
 - ・星空に焚火が舞うと歩み出す友と笑って良き
思い出を
 - ・最後の日気合と汗がボールへと気持ちが籠る
決まる瞬間
- 24 男子
 - ・夏の末クラスが集う海原に裸足でかける暑い
砂浜
 - ・磯香る青一面の海原に風に吹かれる一艘の船
- 25 男子
 - ・煌々とクラスを照らす火を囲みその思い出を
心に刻む
 - ・きらきらと輝く海に勇気です入らぬ自分輝く
友達
- 26 男子
 - ・ついにきた最後の試合 1 ゴールここで決めれ
ばヒーローになる

4. 保護者向け短歌出前授業について

2018 年 10 月 17 日（水）、千葉県立京葉高等学校の保護者が 30 数名、本学を訪問され私の短歌創作の授業を受けていただいた。

授業の流れはいつもと同じで、末尾の「短歌出前授業パワーポイント」を使いながら、短歌の基礎と創作のためのポイントを 15 分くらい説明し、そのあとは保護者の皆様と 1 対 1 のコミュニケーションを重ねながら短歌を創作させた。50 分という短い時間ながら保護者の皆様は大学時代を思い出しながら、熱心に短歌創作に取り組んでくれた。

以下、今回の短歌創作の授業時に創作した短歌を紹介する。

- 1 初めての 明海見学 胸おどり まさかの課題
短歌詠むとは
- 2 久々に みんなに会える 喜びに 目覚ましな
しで 起きらわれたわよ
- 3 子供たち 白球追いし 過ぎた日々 今は親た
ち 楽しいランチ
- 4 父と二人 涙湛えて 除夜の鐘
- 5 息子たち 毎朝向かう 学校へ 元気に行くよ
いってきますと
- 6 海と空 境を走る 船の群れ 大漁旗に 希望
の願い
- 7 この時間 たぶん一緒に 悩んでる 白い用紙
に 苦戦してるぞ
- 8 再来年 大学受験 どうしよう 私はイライラ
子供はダラダラ
- 9 粘り強く 立ち向かった君 初試合 一本狙え
諦めることなく
- 10 キムチ鍋 明日の夕飯 考える 足元見ながら
ランニングする
- 11 秋風に 揺られて落ちる 栗の実と 柿に集ま
る 鳥のさえずり
- 12 ぽんたくん わたあめみたい ふわっとさ
あったかいわん あったかいわん
- 13 久々に 楽しく友と 語り合う お昼ご飯は
何食べようか
- 14 五十手前 キラキラ光る キャンパスに 座る
私の はにかむ心
- 15 年末の 慌ただしさを 思い出す いただきも
のの 甘柿よっつ
- 16 紅葉の葉 塩害の影 枯れ果てて 遊歩道にて
悲しむ二人
- 17 いつからか 庭に一輪 彼岸花 忘れず来いよ
と 父の声聞く
- 18 くそババア 勢いで出た 一言に 悔いつのる

- らん 最期の日まで
- 19 これ浄書（か）いて 頼りにされる うれしき
も 稽古不足を 幕は待たない
 - 20 耳ふさぎ 明けを知らせる カミナリの 音も
たのしや 夏が近づく
 - 21 秋風の 日々増す寒さ 身にしみる ホットミ
ルクを 好むこの頃
 - 22 学生の 元気な声が 響く学校
 - 23 三年間 あっという間の 出来事に 親はたじ
たじ 子供晴れ晴れ
 - 24 俳句人 心飛びたる 大勢に 言葉遊ばせ 若
返る能
 - 25 いつの間に 大きく育った 我が息子 君の未
来は 自分で造れ
 - 26 久かたに 大学講義 緊張す 若き時代に タ
イムトリップ
 - 27 父と子で テニスボールを 追いかけて 溝を
埋めてき 関係改善
 - 28 我が家の カブトの幼虫 成長楽しみ
 - 29 夏草や つわものどもが 夢の跡
 - 30 秋の空 枯れ葉飛び散る 白い球 悔しさこら
えて 顔見合わせて
 - 31 来月の 大学受験 受かるかと 体調管理 母
頑張るぞ

5. 終わりに

昨年度の研究紀要では、『潜在的表現能力の育成～弁論へのいざなひ～』とのタイトルで私と弁論とのかかわりと実践報告をさせていただいた。今年度は弁論から短歌にテーマを変えて、私と短歌とのかかわりと実践報告をさせていただいた。

今後も要請があれば、小学校・中学校・高等学校・保護者等に短歌の魅力を伝えながら、短歌を創作させる「出前授業」を継続していきたいと思う。

補足資料：出前授業で使用したパワーポイント資料

浦安高等学校生徒向け特別授業
短歌の鑑賞と創作

2020年1月29日(水)・30日(木)
明海大学教授 歌人「あけみ短歌会」主宰
木内 和 夫

木内和夫プロフィール

- * 千葉県香取市在住
- * 現在の役職
- * ・明海大学 教授
- * ・日本弁論連盟 副会長
- * ・文部科学大臣杯全国青年弁論大会審査員長
- * ・千葉県高等学校学び直し推進連絡委員会顧問
- * ・千葉県NIE推進委員会 理事

木内和夫プロフィール

- * 千葉県公立高等学校教員
- * 千葉県立東総工業高等学校長
- * 千葉県立松尾高等学校長
- * 千葉県高等学校進路指導部会会長
- * 千葉県高等学校弁論部会会長
- * 千葉県高等学校演劇部会会長
- * 千葉県高等学校学校図書館部会会長
- * 千葉県高等学校国語部会副会長 等

短歌出前授業

- * 千葉県教育庁北総教育事務所指導主事(H17年から4年間)
- * 山武市立睦岡小学校短歌出前講座 3年間
- * 栄町立安食台小学校短歌出前講座 3年間
- * 千葉県立松尾高等学校3年2組
- * 短歌出前授業(鴨川青年の家)
- * 千葉県立東総工業高等学校保護者向け文化サロン
- * 短歌指導 3年前は月1回のペース
- * 現在は2回のペースで実施
- * 千葉県立京葉高等学校保護者向け短歌特別授業
- * 千葉県立浦安高等学校第1学年生徒向け出前授業(2年目)

短歌と俳句

- * 短歌 5・7・5・7・7
- * 俳句 5・7・5
- * 季語が必要

俳句

- * ホームラン ボールの上の 夏の空
- * 千葉県富里市日吉台小学校の児童の
- * 作品
- * 俳句日本一になった作品

短歌創作のポイント①

- * 頭の中に、情景がイメージできるような、色彩豊かな作品にしよう。

短歌創作のポイント②

- * 5
- * 7
- * 5
- * 7
- * 7
- * のリズムは崩さないようにしよう！

短歌創作のポイント③

- * 嬉しい
- * 悲しい
- * 美しい
- * きれい
- * 怖い
- * などの単語は使わずに表現しよう！

短歌創作のポイント④

- * 分かりやすい、
- * 誰もがイメージしやすいような、
- * 何のスポーツか、
- * 何の競技かわかるような、
- * 短歌にしよう！

好きな歌を見つけてみよう！

- * お薦めの歌人たち
- * 石川啄木
- * 寺山修司
- * 俵万智
- * 与謝野晶子
- * 斎藤茂吉
- * 吉井勇

気になった言葉を書き留めよう！

- * イイな、面白いなど思った言葉を書き留めておこう。
- * ノート
- * ケータイやスマホにあるメモ機能でもOK
- * 57577にこだわる必要なし
- *

テーマを決めよう！

- * 家族
- * 友達
- * 学校生活
- * 部活動
- * 恋愛
- * 自然

音数の数え方を知っておこう！

- * ボール → 3
- * カラー → 3
- * きゃ → 1
- * きゅ → 1
- * しゃ → 1
- * もっとも → 4
- * トラック → 4

自分の言葉を探してみよう！

- * 誰も使っていない
- * 自分だけのオリジナルな言葉を探してみよう！

推敲にはたっぷり時間をとろう！

- * 何度も、何度も、口に出して
- * 納得がいくまで、読み直しをしてみよう！

短歌創作に挑戦！

- * ①一首できたら木内に見せる。
- * ②木内からの質問に答える。
- * ③推敲する。
- * ④再度木内に見せてOKをもらう。
- * ⑤二首目に挑戦！

浦高生徒作品：野球

- * フェンス際
- * この手に入る
- * 白球を
- * 力を込めて
- * ホームへ返す

浦高生徒作品：野球

- * 右打者の
- * 強い打球が
- * 目の前に
- * 三塁線は
- * 通過させない

浦高生徒作品：音楽

- * 張り詰めた
- * 空気の中を
- * 切り裂いて
- * 響かせ俺の
- * テナーサックス

浦高生徒作品：弓道

- * 道場の
- * 射位に構えて
- * 矢をつがえ
- * 的を見定め
- * 弦音響かす

浦高生徒作品：恋

- * 近づいて
- * 見つめるだけで
- * 胸熱く
- * 離れて見れば
- * 僕だけのもの

浦高生徒作品：家族

- * 夜の空
- * とけこんでいく
- * 白い息
- * 母待つお家と
- * ほかほかごはん

小学生の短歌入選作品

- * 発表会
- * 黒と白との
- * けんばんに
- * 手を置いたなら
- * もうもどれない
- * 千葉県山武市立睦岡小学校 6年 齋藤 光里

小学生の短歌入選作品

- * 強敵の
- * 速くて重い
- * あのシュート
- * それでもぼくは
- * ゴールをまもる
- * 千葉県山武市立睦岡小学校 6年 鈴木 悠介

小学生の短歌入選作品

- * 報国寺
- * きれいになびく
- * 竹の庭
- * 疲れを忘れ
- * 涼しさが増す
- * 千葉県山武市立睦岡小学校 6年 向後 莉玖

小学生の短歌入選作品

- * 一点差
- * この土壇場で
- * 誰決める
- * チームの熱気
- * ただようばかり
- * 千葉県山武市立睦岡小学校 6年 杉本 優那

小学生の短歌入選作品

- * 同点だ
- * おのれの力
- * しぼり出せ
- * 残り8秒
- * フリースローで
- * 千葉県栄町安食台小学校 6年 倉木 遥都

高校生の短歌入選作品

- * スーパーの
- * 缶のジュースが
- * 逆立ちし
- * 健康ですと
- * 叫び続ける
- * 岡澤律和(佐原高校)

高校生の短歌入選作品

- * 直接は
- * 見つめられない
- * 歯がゆさに
- * ガラスに映る
- * あなたを独占
- * 佐藤由季(佐原高校)

高校生の短歌入選作品

- * 高一で
- * 父の背だけは
- * 越えたけど
- * まだかなわない
- * 背中の広さ
- * 菅谷和弘(佐原高校)

大学生の短歌入選作品

- * 何気ない
- * 時間が今日も
- * 流れてる
- * 昼のキャンパス
- * 恩師の逝ける日
- * 久保木善浩(佐原高校・淑徳大学・産経新聞)

松尾高校3年B組 クラス合宿

- * 日時:2018年8月28日(火)
- * 会場:鴨川青年の家
- * 参加数:36名
- * 合宿最終日の最後の講座 短歌出前講座を開講

磯貝真規子学年主任

- * 声合わせ
- * 力合わせて
- * キラキラと
- * 光る水面に
- * 漕ぎ出すオール

川野 恋

- * 恥ずかしい
- * 気持ちを胸に
- * 秘めたまま
- * 母に手渡す
- * 一枚の紙

川野 恋

- * あきらめる
- * もう決めたのに
- * まだ揺れる
- * 私の心は
- * まだあなたかも

川野 恋

- * この広い
- * 大きな大きな
- * キャンバスに
- * 私の未来を
- * どう描こうか

角田 優花

- * しっかりと
- * ピントを合わせ
- * 押すシャッター
- * 画面の向こう
- * 笑顔きらめく

山田 祐華

- * 太陽が
- * 夏の浜辺で
- * 肌焦がす
- * 吹く潮風に
- * 思い出乗せて

高野 竜平

- * 隠せない
- * 心の思い
- * 伝えたい
- * 身体に刻む
- * 自分の言葉

水口 秀

- * 四本目
- * 結果が決まる
- * 最後の時
- * この一つ矢に
- * 想いを乗せて

平山 陽聲

- * 波荒く
- * 先の見えない
- * 恋の船
- * だけど私は
- * 嵐に飛び込む

京葉高校保護者の短歌

- * 海と空
- * 境を走る
- * 船の群れ
- * 大漁旗に
- * 希望の願い

京葉高校保護者の短歌

- * 粘り強く
- * 立ち向かった君
- * 初試合
- * 一本狙え
- * 諦めることなく

京葉高校保護者の短歌

- * 五十手前
- * キラキラ光る
- * キャンパスに
- * 座る私の
- * はにかむ心

京葉高校保護者の作品

- * 耳ふさぎ
- * 明けを知らせる
- * カミナリの
- * 音もたのしや
- * 夏が近づく

京葉高校保護者の作品

- * いつの間に
- * 大きく育った
- * 我が息子
- * 君の未来は
- * 自分で造れ

拙作①

- * 我が戀の
- * 焰(ほむら)鎮めむ
- * 一人来し
- * 白磁冷たき
- * 砥部焼の里

拙作②

- * 面取りし
- * 後にほどかれ
- * さらさと
- * 白き胴着に
- * 散るは汝の

拙作③

- * 厳寒の
- * 春日若宮
- * 御祭
- * シテの口より
- * 白き息出づ

拙作④

- * 水泳の
- * 授業を終えし
- * 女生徒の
- * 髪にあえかに
- * カルキの香る

拙作⑤

- * アラムスの
- * 香りあえかに
- * ただよはせ
- * 机間巡視の
- * 君は立ちをり

拙作⑥

- * あまたなる
- * 山車並びをり
- * 小野川の
- * 川面に揺るる
- * 赤き提灯